

官民連携グッドプラクティス集

—在外公館による日本企業支援—

平成28年度下半期（1／2）

外務省 経済局

目 次

1. ビジネスセミナー等	3
2. 日本企業の広報	10
3. 農林水産物・食品の広報	25
4. 地方自治体との連携	33
5. 意見交換会	37
6. 安全対策	42
7. その他	44

1. ビジネスセミナー等

【ビジネスセミナー】 ヨルダン=日本ビジネス・フォーラム（ヨルダン）

開催日： 平成28年10月27日

場 所： 虎ノ門ヒルズ

主催（共催）：ヨルダン投資委員会、ヨルダン・日本投資事務所
協力／参加企業・自治体：ジェトロ、株式会社国際開発センター等

在ヨルダン大使館

【概要】

- ヨルダン王宮府は、日本にヨルダン・日本投資事務所を設立し、日本企業のヨルダンでの投資促進を目的として株式会社国際開発センター（IDCJ）と業務契約を締結した。
- ヨルダン・日本投資事務所は、2016年10月のアブドゥラー国王の訪日に合わせ、東京にて「ヨルダン・日本投資フォーラム」を開催した。
- 上記フォーラムでは、市場としての中東及びヨルダンの説明等に加え、ヨルダン・日本投資事務所が日本からの投資を呼び込む上での優先分野として選定した5分野（①ゲーム、アニメ、②ICT、インターネットコンテンツ、③化粧品、スパビジネス、④観光、旅行、⑤オリーブオイル）に基づいて意見交換等を実施。



【評価・結果】

- 上記5つの優先分野に従事する日本企業63社、ヨルダン企業27社が参加し、活発な意見交換が行われた。
- 出席者からは「中東はまだ多くの日本人にとってなじみの薄い地域である。このようなセミナーを通じて中東やヨルダンに対する理解度及び親近感を高めることができた。」「ヨルダンには協業できそうな地元企業が存在することがわかった」などの感想が寄せられた。
- また、ヨルダン企業に関心を持った日本側出席者の一部は、ヨルダンを訪問し、ヨルダン企業と業務提携の可能性を検討している。



【ビジネスセミナー】

財務ガバナンス／移転価格リスク管理に関するセミナーの開催

開催日： 平成28年10月19日

場 所： 在ナッシュビル総領事公邸

主 催： 在ナッシュビル総領事館、プラント・モラン会計事務所

在ナッシュビル総領事館

【概要】

- 主に当館管轄内の日本企業関係者を対象として、「財務ガバナンス／移転価格リスク管理」と題するビジネスセミナーを開催。
- セミナーには、プラント・モラン会計事務所から、企業の戦略・人事及び税務・会計分野の専門家を招き、企業内で起きやすい財務関連不正の防止策、移転価格リスク管理のポイント等について、日本語で講義を行った。
- セミナーには約30名が参加し、講義終了後は、参加者相互のネットワーキング・レセプションを開催した。

【評価・結果】

- 講義終了後には、活発な質疑応答が行われ、参加者の関心の高さが窺えた。
- 出席者からは、「取引企業以外の方とのネットワークが広がるので、公私ともに大変役に立っている。今後もこのようなセミナーを定期的で開催してもらいたい」との感想が寄せられるなど、企業活動への貢献のみならず、当地の日本人コミュニティのネットワーキング強化の一助ともなっているものと思料。



【ビジネスセミナー】 日本とカタールの企業間ビジネスワークショップ開催 (在カタール大)

開催日：平成28年2月28日

場 所：カタール商工会議所

共 催：カタール商工会議所、ジェットロドバイ事務所

後 援：在カタール日本大使館

参加企業：29社（日本企業）、50社超（カタール企業等）

在カタール大使館

【概要】

- 2022年にカタールにて開催されるFIFAワールドカップを見据え、両国間のビジネス関係強化を目的としたビジネス・ワークショップを開催。
- 日本側は9社が、ITを活用したスポーツイベントでの安全管理や道路交通管理システム、LEDライト等の省エネ設備、廃棄物発電施設での排気熱の再利用技術、生活関連産業（スタジアムや地下鉄駅への衛生機器の導入）などの最新技術や事業実績を紹介した。カタール側は公共事業庁が、ワールドカップを見据えた高速道路などのインフラ整備状況が紹介された。
- また昼食を取りながらの名刺交換会（ネットワーキング会合）も行われ、その場を活用し当館及びジェットロにて日本食の提供・紹介を行った。

【評価・結果】

IT、インフラ整備、衛生機器、省エネ発電技術等、多様な産業分野からの出席の下、積極的なネットワーキングが行われるなど、2022年FIFAワールドカップを睨んだビジネス連携強化に向けた両国企業の関心の高さが改めて明らかとなった。



日本企業関係者のためのビジネスセミナーの開催

開催日： 平成28年11月16日

場 所： ハンガリー投資促進庁（HIPA）

主 催： HIPA、日本大使館

●ハンガリー投資促進庁（HIPA）との共催により、在ハンガリー日本企業関係者を対象とするビジネスセミナーを開催。

●ハンガリー国内は、近隣諸国と同様にブルーワーカーやエンジニアを中心に労働力不足が慢性化しつつあり、当地企業にとって優秀な労働者の確保は重要な経営課題。そこで、ハンガリー政府が注力し、産業界でも注目を浴びつつある独から由来した「デュアルトレーニング」と呼ばれる職業訓練システムを紹介するセミナーを当館の働きかけにより実施

●セミナールーム定員の50名以上が参加。HIPA長官より、「過去にセミナールームが満員となった記憶がなく、日本大使館の強力なリーダーシップと日本企業のプレゼンスの大きさを強く実感。一層日本企業を大切なパートナーとして接したい。」との発言を得た

●参加者からは、セミナーの内容は企業が抱える経営課題の解決策を示すものであり、デュアルトレーニングという新たな人事戦略ツールを他国企業に先駆けて情報を入手できたことは、他社との競争上極めて有意義である等、セミナー開催にイニシアチブを発揮した当館に対する感謝の言葉が次々と述べられた

在ハンガリー大使館



日本企業関係者のためのビジネスセミナーの開催

開催日： 平成29年3月2日

場 所： ハンガリー投資促進庁（HIPA）

主 催： HIPA、日本大使館

●ハンガリー投資促進庁（HIPA）との共催により、在ハンガリー日本企業関係者を対象とするビジネスセミナーを開催。

●本年1月1日付けで、事業投資を行う企業に対してハンガリー政府が助成金を支給する「キャッシュ・インセンティブ」のルールが変更。昨年11月にHIPAと当館共催で日本企業向けに労働者不足解消を目的としたセミナーを開催した際にHIPAより「重要なパートナーである日本企業に引き続きハンガリーに投資を継続していただくために、特別にセミナーを開催する機会を設けたい」との申し出があり、共同開催に至る。

●セミナールーム定員満員となる約50名が参加。セミナー参加者からは、キャッシュ・インセンティブ制度の話は、企業活動にとって重要な経営判断情報であり、セミナー開催にイニシアチブを発揮した当館に対する感謝の言葉が述べられた。

在ハンガリー大使館



【ビジネスセミナー】 内視鏡外科日本セミナー（ロシア）

開催日： 平成29年3月10日

場 所： 在ロシア大使館多目的ホール

主催（共催）：大使館 オリンパス株式会社（厚生労働省）

協力／参加企業・自治体：ロシア内視鏡外科学会，日本内視鏡外科学会

在ロシア大使館

【概要】

- オリンパス株式会社との共催により，日本式内視鏡外科手術の普及及び日本製医療機器の普及を目的として，大使館ホールにおいて内視鏡外科日本セミナーを開催。モスクワを中心とするロシアのトップクラスの内視鏡外科医約70名が参加した。
- 田島経済公使，エミリャノフ露内視鏡外科学会理事長，北野大分大学学長（日本内視鏡外科学会名誉理事長）等の挨拶に続き，北野学長ら3名の日本人医師が日本の最先端の医療技術についてのプレゼンテーションを行った。その後，エミリャノフ理事長からロシアにおける内視鏡外科の現状についてのプレゼンテーション，オリンパスから最新の内視鏡機器の紹介が行われた。
- 会場にはオリンパスの3D内視鏡機器を展示。プレゼンテーション後は，企業の交流促進のためのビジネスディナーを開催し，日本食を食しながら，参加者間の情報交換や人脈構築の場を設けた。

【評価・結果】

- 出席者からは「世界をリードする日本の内視鏡技術に触れたり日本人の先生方と交流したりする貴重な機会となった」などの感想が寄せられた。
- TBSでは「日ロで医療の交流が急ピッチ、日本の最先端技術を紹介」と報道された。
- 本件は厚生労働省の医療国際展開等推進事業の一環として実施されたもの。医療分野は，日露両国政府が進める8分野の協力プランの第1項目とされており，中でも内視鏡は日本が強みを持つ分野。当館としても同分野での日露協力の具体化に向けて引き続き支援。



2. 日本企業の広報

【日本企業の広報】 【その他】

ビジネス環境の実状紹介（クウェート）

実施： 随時

紹介場所： 在クウェート日本大使館公式ホームページ
www.kw.emb-japan.go.jp/itpr_ja/00_000189.html

協力： 企業駐在員

在クウェート大使館



【概要】

- クウェート国内に企業駐在員は少なく、多くの企業はドバイや欧州からクウェートの情報収集を行っており、正確な情報が掴みづらいのが実状。
- クウェートは、原油生産量及び埋蔵量が人口（国民数）に鑑みれば莫大である一方、インフラ整備が未発達であることから、日本を含め諸外国企業が強い関心。
- クウェートに訪問可能な企業にはブリーフを行っているが、多くの日本企業に対して、クウェートでのビジネス慣習やビジネスリスクの情報を提供するには限界。
- そのため、クウェートの外にいる日系企業の参考に資するべく、**ホームページ上に実際の日本人ビジネスマンに登場していただき、クウェートのビジネス実態を紹介する取組を開始。**
- 同時に定期的にクウェート関係者へは**経済月報を配信しており、その際、担当書記官によるコラムを掲載することにより、読みやすさや親しみやすさを付加。**

【評価・結果】

- ホームページでインタビューを受ける日本人ビジネスマンには、全員顔出しの承諾を受けて掲載しており、閲覧側から見て情報の信用性が高まるよう工夫していることから、当該ページ訪問者からは概ね高評価の感想を受けている。（サイト訪問者数も増加）
- 定期的に配信している経済月報では、「役所的な文書では無く、コラムでは当地の時事問題を易しく解説している」とコメントを受けており、今後も続けて欲しいと要望を受けている。



【日本企業の広報】 天皇誕生日祝賀レセプションの場を活用した日本企業及び自治体PR（コスタリカ）

開催日： 平成28年12月5日

場 所： 大使公邸

主催（共催）： 在コスタリカ大使館

協力／参加企業・自治体： トヨタ等日系車企業， パナソニック等電化製品企業，
ブリヂストン， マイクロベンション等14社， 岡山市， 長野県松川町， 気仙沼市

在コスタリカ大使館

【概要】

- 天皇誕生日祝賀レセプションの場を活用し， 当国で展開する日系企業等のPRのための展示， 姉妹都市関係の展示及び日本食・酒類の提供を実施。日系企業や地方自治体等， 合計17の団体が協賛した。
- 当地政府関係者， 財界関係者， 各国の在外公館， 外部団体， 報道関係者等合計200名近くの来訪者があり， 当国関係者だけでなく各国の政府関係者に対するPRの場となった
- 企業の広報ブースに加え， 首都サンホセ市の姉妹都市である岡山市， プンタレナス市の姉妹都市である気仙沼市， 並びにこのたび2020年東京オリンピック・パラリンピックにおけるコスタリカのホストタウンに登録された長野県松川町を宣伝するブースも設けた。

【評価・結果】

- 当地の公邸は収容人数やスペースの都合上， 日本企業の製品を広く設置するには困難であり， 展示物はパンフレットやグッズがメインとなるものの， 具体的な製品のアピールとしてパナソニックやソニーの大型テレビ， 及び自治体の地酒などを用いた。また， 岡山市関連品（茶器， 団扇， 手ぬぐい， 手まり等）の広報グッズを展示した。
- 冒頭の大使スピーチの中で， 2016年の日本企業の当地における活躍等について紹介し， 大使自ら地酒を参加者に積極的にアピールした。



【日本企業の広報】

日本製品紹介展（コスタリカ）

開催日： 平成29年3月18日及び19日

場 所： 子供博物館

主催（共催）： 在コスタリカ大使館

協力／参加企業・自治体： トヨタ等日系車企業， パナソニック等電化製品企業，
ブリヂストン， マイクロベンション， トレードステーション等計13社

【概要】

- 当国において14年目を迎える当館主催「日本文化週間2017（3月2日～19日）」の主要事業の一環として開催。
- 本展示会の開催に当たっては、当地日系企業13社の協力を得つつ、参加企業各社の製品の優秀性、先進性、信頼性等の魅力をコスタリカ国民に紹介して、当地日系企業の商業活動を側面支援する。
- 本展示会を開催するにあたり、当館HP、FB及びプレスリリース等で広報に努めると共に、日本製品紹介展カタログ（別添）を作成の上、各社の製品を紹介。
- 各参加企業からのノベリティグッズの提供等により集客に努め、また、同展示会と並行して茶道・盆栽・折り紙・囲碁・日本語教室等のワークショップも実施した。

【評価・結果】

- 日系車や電化製品の宣伝はもとより、当国で医療機器を生産するマイクロベンションや、株式会社トレードソフトを作成するトレードステーション等、コスタリカで成長著しい産業の企業の周知にもつながったと思料。ノベリティグッズを楽しむに訪れる出席者も多かったが、初回としては上々の入場者数であった。
- この開催日はコスタリカ最大のモーターショーと日程が重なったため、いくつかの日系車企業は参加を辞退し、当日も人員を手配するのに困難であった企業も散見された。日程については今後検討を要する。
- 当国で最大の発行部数を誇る3月1日付ディアリオ・エクストラ紙（12面）及び当国経済専門紙である3月3日付ラ・レプブリカ紙（16頁）に、全面を割いて「コスタリカ人のための日本の祭典」と題して、日本文化週間と日本製品紹介展について報じた（報道ぶり右参照）。

在コスタリカ大使館



【日本企業の広報】天皇誕生日祝賀レセプションにおける日本製品の紹介（ホンジュラス）

開催日：平成28年12月6日

場 所：ホテル・インターコンチネンタル・ホンジュラス

主催（共催）：在ホンジュラス日本国大使館

協力／参加企業・自治体：セイジロウ・ヤザワ・イワイ社，SONY
Y 代理店，トヨタ代理店

在ホンジュラス大使館

【概要】

- 天皇誕生日祝賀レセプションの機会を活用し，同会場内に3つのブースを設け，当地日系企業のPR，及び，斬新性・高品質を兼ね備えた日本製品を紹介。
- 当地日系企業のセイジロウ・ヤザワ・イワイ社（東芝メディカルシステムズや富士フィルム等の医療機器を主に扱う），SONY Y 代理店，及び，トヨタ代理店の3社が参加。

【評価・結果】

- 当地では，安価な中国製品が年々増えてきている。日系企業は“日本製品の品質の良さ”を売りにしているため，本レセプションにて展示・実演を行ったことにより，品質の良さを幅広い来場者に対しPRすることができた。本レセプションには，アルバレス大統領代行，リベラ国会副議長，アグエロ外務・国際協力大臣等の政府要人や財界関係者が列席。
- 来場者は，斬新な展示品に興味を抱き，ブースの企業関係者に製品について問い合わせる様子が多々見られた。



【日本企業の広報】当地大手紙への国交回復60周年記念記事の投稿（ポーランド）

在ポーランド大使館

実施日：平成29年3月15日

主催・協力：大使館、在ポーランド日本商工会

【概要】

- 日ポーランド国交回復60周年を記念し、当地大手紙Rzeczpospolita（ジェチポスポリタ）紙に両国間の交流に関する記事を投稿。
- 経済関係については、当地商工会に執筆を依頼した。

【評価・結果】

- 当地事業者からは、両国間の交流の発端について知ることができた、日系企業がポーランド市場を有望と見ていることが分かり勇気づけられた、等のコメントが寄せられた。
- 同紙は政府内でも広く読まれており、記事掲載以降、政府関係者との意見交換の際にも同記事についての言及がなされる等、政府関係者も含め広く我が国企業のポーランドへの関心を伝えることができた。



【日本企業の広報】

国際見本市の機会を捉えたジャパンデイ開催（キューバ）

開催日：平成28年11月1日

場所：在キューバ大使公邸

主催（共催）：大使館

協力／参加企業：JETRO、双日、三井物産、三菱商事、住友商事、丸紅、太知HD、アタカ、前川製作所、ぺんてる、日立ハイテック、ホンダ、マキタ、パナソニックなど

【概要】

- キューバ最大の見本市であるハバナ国際見本市2016の機会を捉えジャパンデイを公邸で開催。JETROから石毛理事長が参加したほか、日本企業や外国貿易・外国投資省やキューバ商業会議所等関係機関から80名が参加した。
- 製品展示ブースを設置し、これまで当地でビジネスを進めていた企業・メーカーのみならず、新規に当地でビジネスを開始しようとする企業の製品を展示した。
- 宮城県からのそば打ち名人を招待し、大使公邸より提供した日本食と合わせてそばを提供した。そばはキューバでは一般的でないものの、総じて好評であった。

【評価・結果】

- 大使公邸でジャパンデイを開催することのメリットは、普段付き合いのある取引先のみならず、つきあいの無い取引先ともつながりが出来る事。今回も企業から招待して欲しい企業を聴取し招待したほか、当館で日頃よりつながりのある政府関係者も招待した。
- 製品展示ブースを設置したことにより、キューバ企業家が日本製品に関心を持ち、国際見本市に設置された日本パビリオンへ足を伸ばすきっかけとなったほか、実際にその場で政府関係者と企業関係者が話し合いを持つ場面も見られた。
- また鏡割・日本食の提供・そば打ちなどを実施し、招待者に日本の文化の一端に触れてもらう機会となった。

在キューバ大使館



展示スペース

そば打ちの様子



【日本企業の広報】 丸紅ハバナ事務所再開記念レセプションの開催（キューバ）

開催日： 平成29年3月8日
場 所： 在キューバ大使公邸
主催（共催）： 大使館（丸紅ハバナ）

【概要】

- 丸紅が当地での事務所を再開することを記念して大使公邸でレセプションを開催。当地で活動する日本企業、フィデリート・カストロ国家評議会科学顧問（フィデル・カストロの長男）、エルナンデス商業会議所会頭、ロドリゲス元駐日大使、ダビラ運輸省次官などの政府高官を含め外国貿易・外国投資省など関係機関から100名以上が参加。
- 渡邊大使より、丸紅ハバナ事務所の再開への祝辞を述べた他、丸紅の矢島顧問、エルナンデス商業会議所会頭が挨拶を行った。

【評価・結果】

- 大使公邸で特定の企業を対象としたレセプションを開催。オールジャパンでキューバとの経済関係を拡大していく姿勢を打ち出すことが出来た。
- 当地のホテルで開催した場合には提供する事が難しい日本食を提供することが出来た。大使館・丸紅のデマケとしては、大使館が調理を行い、丸紅が材料を提供。
- 大使公邸で記念レセプションを行うことで、日頃丸紅として取引のあるキューバ機関のみならず、当館で付き合いのある機関関係者を招待し、人脈の拡大にも寄与した。

在キューバ大使館



レシービング



フィデリート科学顧問



エルナンデス会頭挨拶



乾杯の様子

【日本企業の広報】天皇誕生日祝賀レセプションにおける日本製品展示（キューバ）

開催日：平成29年12月6日

場 所：在キューバ大使公邸

主催（共催）：大使館

在キューバ大使館

【概要】

- 大使館最大の行事である天皇誕生日祝賀レセプションにおいて館用車として購入直後のトヨタ・レクサス（LS460L）を展示。当地には、館用車と同型のモデルがなく多くの注目を集めていた。
- レセプションにはデルトロ閣僚評議会副議長，メディーナ外務省第一次官，シエラ外務省次官，ゲラ全国防災参謀本部長，エルナンデス商業会議所会頭など30名弱が参加した。
- また当地進出企業の提供による資料や販促品（日本製ペン）を来訪者に配布した。

【評価・結果】

- 当地では日本車はほぼ販売されておらず，中国車の吉利自動車等の後塵を拝している状況。天皇誕生日祝賀レセプションという閣僚や多くの要人が集まるイベントにおいて，レクサスという日本の誇る高級車を展示し，アピールを行った。
- ビジネス・経済協力等で車の導入を狙っている日本企業も存在することから今後そうした事業を行う上で良いきっかけとなった（実際に，現場で複数の商談が持ちかけられたとの由）。



レシービング



上：閣僚級の参加者
下：大使挨拶



レクサスの展示

【日本企業の広報】 日本製医療機器の紹介（ブラジル）

開催日：平成28年11月23日

場 所：日伯友好病院（サンパウロ日伯援護協会）

サンパウロ州サンパウロ市

主催（共催）：サンパウロ総領事館、サンパウロ日伯援護協会、

在サンパウロ総領事館

【概要】

安倍首相訪伯時に表明された我が国医療の国際展開に向けた日系病院との連携強化、日本の高度医療のショーウィンドウ化を通じたブラジル医療事情改善への一環として、草の根・人間の安全保障無償資金協力による供与式を行った。

日系病院である日伯友好病院に対し、日本光電、島津製作所等の日本製医療機器を供与した。

【評価・結果】

日系病院に対しては、供与機材の直接的裨益だけでなく資金的余裕を生み出すことによる新たな機材導入を促す等、院内に占める日本機器の割合増に貢献。

病院関係者からは、病院の活動範囲を拡大しつつ地域社会に貢献したいとの謝辞があった。

社会への貢献に伴い日本機器の技術力の高さを広めることになり、企業支援としては高く評価できる。

供与式については、当地邦字紙「サンパウロ新聞」と「ニッケイ新聞」に掲載され、供与機器メーカー名、製品等が紹介された。



【日本企業の広報】 天皇誕生日祝賀レセプションにおける日本企業PR（ブラジル）

開催日： 平成28年12月6日

場 所： 在サンパウロ総領事公邸

主催（共催）：在サンパウロ総領事

参加企業：トヨタ、味の素、黄桜、エプソン

在サンパウロ総領事館

【概要】

天皇誕生日祝賀レセプションを機会に、日本企業製品（自動車、サプリメント、日本酒、プリンター等）の展示を行った。日本酒の試飲を実施。また、会場で撮影した写真をプリントアウトし記念品として提供していた。

同レセプションには州議会議員や日系団体、企業関係者等約450名が出席。

【評価・結果】

総領事公邸は展示場所を確保することが困難なこともあり、これまで同レセプションでは企業PRを実施してこなかったが、企業支援の重要性を鑑み実施に踏み切った。出席者、参加企業共に「来年も企業PRを実施してほしい」等の声があり、日本製品をPRする場として高い評価を得たと言える。

また、当地邦字紙「サンパウロ新聞」と「ニッケイ新聞」には企業展示についての掲載があり、広くPRする機会を提供した。



【日本企業の広報】 日本の魅力的な中小企業の紹介（コロンビア）

開催日： 平成28年10月19日

場 所： 在コロンビア大使公邸

主催： 大使館

協力／PROCOLOMBIA（コロンビア貿易投資観光促進機構）、
木曜会（コロンビア進出日系企業の会）、株式会社NCネットワークなど

在コロンビア大使館

【概要】

- コロンビア政府は、左派ゲリラと半世紀以上続いた内戦を終結させることで合意し、国際社会から大きな期待と注目を集めており、日・コロンビア経済関係もEPA早期妥結への期待が高まる中、飛躍的に発展する好機にある。
- こうした中、日本の魅力ある中小企業約10社の経営者等が、「ミッション」として、コロンビアの魅力を探るべく訪問した。当館は、その機会に、日本とコロンビアの経済関係者に一層関係を深めていただくことを目的として、レセプションを開催した。
- レセプションでは、小島経団連日本コロンビア経済委員会委員長、ベレスFNC（コーヒー生産者連合会）コロンビア日本経済委員会委員長をはじめ、コロンビア政府（商工観光省等）、当地進出日本企業、日本企業のビジネスパートナーであるコロンビア企業等の関係者も出席し、両国関係者がお互いの可能性を実感する絶好の機会となった。

【評価・結果】

- ミッション参加企業からは、「コロンビアの魅力（優秀な技術者が多い）や、政府・企業関係者の熱意を感じる機会となり、今後の大きな可能性を実感した」などの意見が寄せられた。
- コロンビア関係者にとっては、日本の投資に対する期待と共に、対日EPA早期締結の重要性を再確認する機会となった。
- 数日後の現地主要紙には、ミッションにも参加した株式会社キャステムの記事や、政府高官（ハラミージョPROCOLOMBIA（コロンビア貿易投資観光促進機構）総裁）による対日関係の重要性に関する報道された（報道ぶり右参照）。



ミッション企業の概要をスペイン語で作成し、会場（公邸）内に展示。



政府高官（ガンボア商工観光次官）の挨拶



左：24日付エル・ティエンポ紙（戸田株式会社キャステム社長インタビュー）
右：28日付ラ・レプブリカ紙（ハラミージョ総裁インタビュー）

【日本企業の広報】

日本車の展示（オマーン）

開催日：平成28年12月4日

場所：在オマーン日本国大使公邸

主催（共催）：大使館

協力／参加企業・自治体：トヨタ・日産・マツダ・三菱の輸入業者

在オマーン大使館

【概要】

- オマーンにおいて、日本車は約77%のシェア（2015年販売分）を持つなど人気であるが、昨今の油価低迷が割高の日本車の販売に影響を及ぼす可能性があるという意見も当地のディーラーから寄せられたことから、天皇誕生日祝賀レセプションの機会を利用し、最新の日本車を展示することで、参加者に日本車をアピールした。
- トヨタ、日産、マツダ、三菱の各輸入業者の協力を得て、4台の日本車を展示するとともに、ディーラーも説明を行った。

【評価・結果】

- 参加者からは「車を買換えるときの参考としたい」などの感想が寄せられ、一定の広報効果は得られた。
- ディーラーからは、天皇誕生日祝賀レセプション参加者という客層を絞って展示を行える機会はありがたく、来年以降も展示を希望する旨の意見が寄せられた。



【日本企業の広報】

天皇誕生日祝賀レセプションにおける日本企業PR（アラブ首長国連邦）

開催日： 平成28年11月29日
場 所： グランド・ハイアット・ドバイ
主 催： 在ドバイ総領事館

在ドバイ総領事館

【概要】

- 天皇誕生日祝賀レセプションの機会を利用し、日本企業製品及びパンフレットの展示（オートバイ、腕時計、ピアノ、洋菓子、アニメ、セラピーロボット等）、日本食・日本酒の提供、北海道の観光案内等を行った。
- 本レセプションには、オベイド・ターイル財務担当国務大臣はじめ約360名が出席し、盛況な場となった。

協力／参加企業・自治体：ヤマハミュージック、日建設計、興和、資生堂、ガイナックス、JFCゴルフ、資生堂、ヨックモック、川崎重工業、チョーヤ、セイコーウォッチ、三菱商事、新日鐵住金、ブラザー、豊田自動織機、北海道、日本食レストラン「元町」、設計事務所「ibdadesign」、日本製品を扱う当地企業「Essa Al Ghurair Investment」、美容関連企業「Human Resource Communications」

【評価・結果】

- 日本の優れた製品、サービス、技術を当地関係者に対外発信する良い機会となった。参加企業からも、多くの出席者から関心を得ることができ、今後も継続的に出展したいとの声が聞かれた。



【日本企業の広報】天皇誕生日祝賀レセプションの機会を活用した日本製品PR（ロシア）

開催日： 平成28年11月15日

場 所： 在ロシア大使館多目的ホール、ホワイエ、会議室他

主 催： 在ロシア日本大使館

参加企業・自治体： 山口県、長門市、栃木県、JA全農とちぎ、アークレイ、ジャパンツールサービス、JAPAN Brand HAL、関西ペイント、日産、パナソニック、セイコー、センコン物流（宮城県委託事業）、エレガントメディカル、ヤマハ、JAL等

在ロシア大使館

【概要】

- 天皇誕生日祝賀レセプションの機会を利用し、日本食及び日本酒等の提供、日系企業製品の展示、日本への観光案内を行った。本レセプションには当地政府関係者等711名が参加し、盛況な場となった。
- 具体的には、山口県、JA全農とちぎ及びセンコン物流（宮城県委託事業）から提供された日本酒を提供した他、現地取扱業者との連携により日本産酒類（サントリーウィスキー、アサヒビール）を提供。全国海水養魚協会が日本産生鮮魚を寿司ネタとして提供するとともに原魚を展示。
- 日系企業は、アークレイ（血糖値測定器）、ジャパンツールサービス（化粧品等、珈琲焙煎実演）、JAPAN Brand Hal（伝統的食器等、和菓子試食）、関西ペイント（建設用塗料）、日産（新型「ムラーノ」）、パナソニック（大型モニター）、セイコー（腕時計）、センコン物流（日本食品、化粧品等）、エレガントメディカル（化粧品）、ヤマハ（自動演奏ピアノ実演）、JAL（日本観光資料の配付）等が参加した。
- また、来場者には、日本紹介雑誌及び各自治体から提供された特産品がお土産として配布された。

【評価・結果】

- 参加企業からは「数多くのお客様より自社製品に高い関心を示していただき、今後への繋がりが大いに期待できる」等の感想が寄せられた。
- 国際通信社「スプートニク」、ロシア観光業界連盟ニュース・ウェブサイト、旅行雑誌社「ホットライン」ウェブサイトにおいて、山口県、栃木県のブース等について記事が掲載された他、日本経済新聞、毎日新聞、産経ニュース等にも記事が掲載された。



3. 農林水産物・食品の広報

【農林水産物・食品の広報】

農林水産物・食品の輸出促進に向けた商談会イベント (JAPAN FOODBIZ IN EGYPT) の開催 (エジプト)

開催日：平成29年3月18日，19日

場所：インターコンチネンタル カイロ シティスターズ

主催（共催）：在エジプト大使館

（日本側：JETRO, JSPS, JICA, Japan Foundation
エジプト側：Egypt-Japan Business Council）

在エジプト大使館

【概要】

- 日本米がエジプトに紹介され、両国の品種を元に品種改良が開始され100周年となる事を記念し、日本の農林水産物・食品の更なる輸出促進を目指して、日本の食品関連企業とエジプトビジネスマンが参加する商談会イベントを開催した。
- イベントには、10社の日本企業が参加し、自社の商品のPRを行った。さらに、寿司チェーン「すしざんまい」を展開する喜代村の木村社長による握りの実演を行い、参加者に寿司を振る舞った。

＜参加企業＞

味の素（調味料），月山酒造（日本酒），喜代村（寿司），マルハニチロ（缶詰，ゼリー等），マルト製菓（お菓子），前川製作所（冷凍圧縮機），シャープ（家庭用冷蔵庫），太地ホールディングス（梅酒，カレー等），クアトロインターナショナル（醤油），ゼンショー（牛丼等）

【評価・結果】

- イベントには、エジプトのレストラン，食品業者，政府関係者等約150名が参加した。特に，寿司の人気は近年エジプトでも高まっており，喜代村の木村社長による握りの実演には多くの人が集まり，好評を博した。
- 参加した日本企業からは，「多くのエジプト企業とコンタクトできた」，「自社の商品に対して良い評価が得られた」などのコメントがあり，ほとんどの企業から期待以上の成果があったとの感想が得られた。
- イベントの様子は，多くの地元メディアで報道された他，NHKのニュースをはじめ日本国内でも報道された。



【農林水産物・食品の広報】 日本酒セミナーの開催（ポーランド）

開催日： 平成29年3月27日
場 所： 在ポーランド大使公邸
共 催： 大使館、JETRO、日本酒製造・販売会社、同輸入業者
（日本盛、チョーヤ、その他ポーランド事業者）

在ポーランド大使館

【概要】

- 大使館多目的ホールにおいて、JETROによる日本酒セミナーを開催。講師より、日本酒の歴史、文化的背景、種類・産地及び日本酒の飲み方等に関し写真を多用したプレゼンテーションや日本酒の製造過程に関する動画を交えながら、日本酒に関する理解を深めるべく講義が行われた。講義に引き続き、出展企業より自社商品若しくは取扱商品に関する紹介が行われた。
- また、参加者の親交のためレセプションを大使公邸で開催。

【評価・結果】

- 出席者からは日本酒への興味が高まった等の感想が寄せられた。レセプションでは積極的な意見交換が行われ、有意義な機会となった。



【日本食紹介】 日本食紹介イベント “JAPAN CULTURE WEEK” 開催 (在カタール大)

開催日：平成28年2月23日

場 所：日本食レストラン『JUNKO Sushi & Japanese Dining』

共 催：在カタール日本大使館、JUNKO Sushi & Japanese Dining

【概要】

- 日本食及び高品質食材の普及を通じた、「本物」の日本文化への理解促進を目的に、“JAPAN CULTURE WEEK”を開催。
- クロマグロ解体ショーの他、三重県「芳翠園」の煎茶、ほうじ茶、玄米茶の試飲、福岡県のいちご「あまおう」の試食や緑茶「八女茶」の試飲、福島県「菱沼農園」の「のむもも」ジュースの試飲、青森県「西目屋村」の白神りんごと食べる世界遺産りんごジュースの試食・試飲会や、九谷焼や唐津焼等の伝統工芸品を展示

【評価・結果】

イブラヒム・ファクルー外務省儀典長、首長家関係者、ビジネス関係者や日本文化に関心を有する学生等多くの方々が来場し、日本食や伝統工芸の美しさを披露する良い機会となった。



大使公邸における北海道フードフェア（道産品PRイベント（UAE・アブダビ）

開催日： 平成29年 2月 8日

場 所： 在UAE大使公邸

主 催： 在UAE大使館、北海道庁、フード特区機構

在UAE大使館

【イベント概要】

北海道からフード特区機構、北海道庁、JETRO北海道、当地からサミットレーディング社の協力を得て、大使公邸にて、北海道産食品の試食および商談会を開催した。本イベントには、日本食を多く扱う当地大手スーパーマーケット“アベラ”や有名ホテル支配人および上級シェフをはじめ30名を超える出席者があった。

参加企業の道産品紹介プレゼンテーションを事前に行い、商品知識をインプットした上で試食会を行った。魚介類や道産牛肉においては公邸料理人がサポートに入り、適切な調理法をアドバイスした。

【提供された日本食に対する参加者の反応】

魚介類は寿司で振る舞われ、普段馴染みの薄いニシン、甘エビ、ホタテの寿司においては好評を博した。また寿司のしゃりを自動で作る寿司製造機械にも多くの注目が集まり、写真に収める現地業者もいた。

ラーメンは動物油脂、アルコールを一切使用しないもので、また味も現地アラブ人に好まれるものであったようで、ラーメン作りのノウハウ習得に掛かる期間や初期投資コストを質問する投資家の姿もあった。

植物工場で生産されたイチゴの試食ブースも特に人気で、来場者は食したことのない甘さに驚いており、製造過程含めた質問の絶えないブースのひとつであった。



【農林水産物・食品の広報】 日本食の紹介及び和食文化の普及（ロシア）

開催日：平成28年11月19日

場 所：ウラジオストク市鉄道文化会館

主 催：在ウラジオストク総領事館

協 力：当地日本食レストラン

在ウラジオストク総領事館

【概要】

- 当館主催の総合的な日本文化紹介事業「第2回ジャパンフェスティバル」にて、当館公邸料理人が講師となり、当地料理関係者、メディア関係者及び一般市民等を対象に日本食に関するレクチャーを行った後、日本食の調理教室を実施し、講座終了後、2種類（料理名：サーモンのにぎり寿司、地鶏フィレ肉とニンニクの芽蒸し海苔巻き仕立て）の試食品を300名に提供した。
- 当地に進出している日本食レストラン5社の協力を得て、日本食の販売ブースを設置した。
- 「和食-正月を例として-」が2013年にユネスコ無形文化遺産に登録された経緯等についてパネル展示等で紹介した。

【評価・結果】

- 「和食-正月を例として-」がユネスコ無形文化遺産に登録されたことは当地でもあまり知られていなかったため、パネル展示を通じて、和食の更なる普及及び和食文化に対する正しい理解促進が図られた。
- 日本食の販売ブースでは、日本式の弁当、丼物、巻き寿司などのご飯物が好評で、日本食への関心の高さが窺えた。
- 当地報道にて、特に興味を引いたのが日本食料理講座であった旨報じられ、当館公邸料理人が実名で紹介された。



【日本企業の広報】【農林水産物・食品の広報】【地方自治体との連携】 天皇誕生日祝賀レセプションにおける日本食及び日本製品PR（モンゴル）

在モンゴル大使館

開催日：平成28年11月24日

場 所：シャングリラ・ホテル

主 催：在モンゴル大使館

協力／参加企業・自治体

：ABICO LLC, オッペン化粧品, 長岡技科大発ベンチャー,
ナベヤモンゴル, Matsuzakaya LLC, State Bank, 都城市,
白井市



【概要】

天皇誕生日祝賀レセプションの機会を利用し、日本産和牛及び日本米の輸出促進を図るため、会場にて宮崎牛の「サイコロステーキ」、千葉県産コシヒカリの「おにぎり」、新潟県産コシヒカリ（外務省・農水省の共同事業により提供）を使った「寿司」を来場者に提供した。当地政府・企業等関係者、各国の在外公館等から500名超の来訪者があり、日本が誇る農産物をPRする良い場となった。

また、レセプション会場外のホールにて、日本産品・製品のPRのため展示ブースを設け、6企業及び2自治体が参加。日本の農産品（梨、焼酎）や飲料品、化粧品、航空製品、金融サービス等の日本産品・製品を紹介することで、日本の魅力を積極的に発信。



【評価・結果】

レセプション会場で提供した宮崎牛に対して「柔らかくて美味しい」、「大変美味である」等の意見が、また展示会場で試食として提供した白井の梨に対して、「みずみずしくて美味しい」、「甘くて美味しい」等の意見が寄せられ、日本の農産品の質の高さ、美味しさを広く知ってもらう良い機会となった。

日本製品の展示ブースにおいては、購入希望や店舗照会も寄せられるなど、日本製品・サービスの広報に大きく貢献。



都城市による宮崎牛PRイベントへの支援及び出席（モンゴル）

開催日： 平成28年11月27日
場 所： サクラレストラン
主 催： 都城市

【概要】

都城市は、現地飲食関係者（レストラン経営者やシェフ等）に宮崎牛や宮崎県農産品、焼酎等を知ってもらうためのPRイベントを開催。PRイベントでは、宮崎牛の試食も実施されたが、試食用宮崎牛の空輸面を当館が支援。当日のイベントには、サクラ和食レストランの顧客など日本食を愛好する富裕層のモンゴル人他、館員も出席。

【評価・結果】

来場者からは、和牛のおいしさに驚きの意見が寄せられたほか、都城市が行った和牛を紹介するプレゼンテーションにより日本の和牛の素晴らしさや都城市の特産品である焼酎の素晴らしさについて参加者に理解された。本年から現地レストランで提供する話が持ち上がるなど、販路拡大の1歩となった。

在モンゴル大使館



4. 地方自治体との連携

【地方自治体との連携】

日本文化デーにおける北海道観光紹介ブースの設置（ロシア）

開催日： 平成29年3月12日

場 所： シティモール（当地ショッピングセンター）

主催（共催）： 在ユジノサリンスク総領事館

協力： 大型ショッピングセンター「シティモール」、サハリン日本人会、サハリン国立大学及び州立図書館及び北海道サハリン事務所

在ユジノサハリンスク総領事館

【概要】

日本文化を総合的かつ大々的に紹介することを目的とした当館主催の日本文化デーにおいて、北海道サハリン事務所による北海道観光促進PRコーナー（観光PR・広報資料配付）を設置し、来場した当地ロシア人に北海道の観光の魅力を伝えた。

【評価・結果】

推定1500人が来場し、数多くの当地住民がブースに立ち寄った。当地住民の北海道への観光客数は増加傾向にあり、日本の中でも特に北海道観光への関心は高く、今回のイベントによる一定の広報効果はあったと思われる。

また、北海道サハリン事務所との連携という意味においても、有意義であった。



【地方自治体との連携】

【その他】

クラスノダール地方ビジネスミッション（ロシア）

開催日： 平成29年3月27日～29日
場 所： ロシア連邦クラスノダール地方
主 催： 大使館、モスクワ・ジャパンプラブ
参加自治体： 山口県

在ロシア大使館

【概要】

- 大使館とモスクワ・ジャパンプラブの合同ビジネスミッションとしてクラスノダール地方を訪問し、10社13人の日本企業関係者が同行した他、同地方との交流促進を目的として山口県代表者も参加した。
- 訪問期間中、コンドラチェフ地方知事との会談を実施し、ビジネス協力の強化や地域間交流の促進に向けた展望等について意見交換を実施した。
- このほか、訪問地域の特徴や参加者のニーズを踏まえ、現地の農業関連企業やワイナリーを訪問したほか、ロシア最大の貨物取扱量を誇るノヴォラシースク商業港やクラスノダール空港などの運輸インフラ施設を視察した。
- また、山口県とクラスノダール地方の交流促進に向け、別途、協力覚書の調整や文化・スポーツ関連団体の視察を実施した。

【評価・結果】

- 出席者した企業関係者からは、「訪問地や視察先が日本企業の関心にマッチしており有益であった」「視察した現地企業とのビジネスを検討するのに役立った」などの感想が寄せられた。実際、視察後はいくつかの企業が商談を開始するなど、日本企業のビジネス案件形成の支援という面で有意義なミッションであった。
- 山口県はミッションに参加することで、クラスノダール地方との協力協定締結に向けたプロセスが前進するなど、地域間交流の一層の推進に資するものとなった。今後もこのようなビジネスミッションを地域間交流推進の機会として活用していきたい。



【地方自治体との連携】 地方自治体PR公邸レセプション（韓国）

開催日： 平成28年3月9日

場 所： 在韓国大使公邸

主催： 在韓国大使館

参加団体： 北海道、青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県、茨城県、横浜市、新潟県、富山県、福井市、山梨県、静岡県、京都府、鳥取県、愛媛県、高知県、長崎県、佐世保市、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県、CLAIR、JNTO

在韓国大使館

【概要】

- 韓国からの訪日外客数が500万人を超え、日韓の姉妹都市交流も160件を超えるなど、人的交流・地方交流は、日韓関係の重要な基盤。
- 当地の政府・地方自治体・旅行・交通・流通・マスコミ関係者等に対する地方自治体のPRを通じ、人的交流・地方交流の一層の拡大を目指すと共に、当地で依然として根強い東日本大震災に起因する風評被害の解消を図る目的で、大使公邸における地方自治体PRレセプションを開催。
- 韓国内に拠点のある地方自治体（事務所、職員派遣等）を中心に25団体が参加し、ブースを設置し、パンフレット・ノベルティの配布や試食・試飲等を通じて、各地域の観光や物産をPR。



【評価・結果】

- 日韓関係が厳しく、かつ、大統領弾劾直前の状況であったが、関係省庁局長、航空各社代表、旅行業協会会長等のVIPを含め、計85名の出席があった。
- 出席者からは、「今まで知らなかった地方について知ることができた」「おいしい日本酒が飲めた」「日韓関係が厳しい時期であるからこそ、こうしたイベントが重要」等の声があった。
- 参加団体の関係者からは、「厳しい状況下にも関わらず、活気のあるPRの場となった」「大使公邸でのレセプションということで、航空各社代表等のVIPに直接PRできた」等の声があった。
- 当地有力紙に記事が取り上げられ、日本専門ケーブルテレビチャンネルにおいて当日の様子が紹介された。



5. 意見交換会

【意見交換会】 経済情勢及びビジネス・投資環境に関する講演会（マラウイ）

開催日： 平成28年10月11日

場 所： 在マラウイ大使公邸

主 催： 在マラウイ大使館

協 力： トヨタマラウイ社、JTIリーフ・マラウイ社

参加企業： 南部アフリカに拠点を置く日本企業7社及びJETROヨハネスブルク事務所

在マラウイ大使館

【概要】

- 当国の産業・貿易・観光省及びマラウイ投資貿易センター（MITC: Malawi Investment Trade Center）が主催した「マラウイ投資フォーラム2016」へ参加した日本企業及び団体を対象に、当国をより深く理解していただくために長年当地でビジネスを行っている大手日系企業のトヨタマラウイ社のコーネル現地社長及びJTIリーフ・マラウイ社のバネステ現地社長によるマクロ経済情勢及びビジネス・投資環境をテーマとした講演会を大使公邸にて開催した。参加者間で活発な質疑応答が行われた。
- 講演終了後は、公邸料理人が用意した和食を食しながら、参加者間の情報交換やネットワーキングを行った。

【評価・結果】

- 参加者からは、マラウイのビジネス・投資環境や課題の現状について、実際に当地でビジネスを行っている企業の生の声を聞ける良い機会となった、マラウイでのビジネスの可能性について今後考えてみるきっかけとなったという好意的な感想が寄せられた。



【意見交換会】 連邦税関庁による日本企業向けセミナー(ロシア)

開催日： 平成29年3月23日

在ロシア大使館

場 所： 在ロシア大使館

主 催： 大使館、モスクワ・ジャパンプラブ商工会通関委員会(JETRO)

【概要】

- ・ロシアにおいて通関問題に直面しているという話が多く、多くの日本企業から示される中、こうした状況を改善することを望むロシア側からの提案が発端となって、露連邦税関庁によるセミナーが実現。
- ・コノヴァレンコ露連邦税関庁国際協力局長ほか連邦税関庁関係者を招き、近年の税関行政の改善内容と成果等に関する講演及び当地通関分野に関する質疑応答を実施。日露政府関係者、日系企業関係者約40名が参加。



【評価・意義】

- ・日露両国の協力の下進められている8項目の「協力プラン」を促進する上で、通関分野など貿易投資環境がより良くなることは非常に重要。
- ・参加した日系企業からは、「日本企業が抱えている問題を露連邦税関庁に直接説明する機会を持つことが出来た」との感想が寄せられた。また、本セミナーが今後も継続して開催されることへの期待が示された。



【意見交換会】 中南米日系社会との連携調査団説明会（アルゼンチン）

開催日： 平成28年10月3日

場 所： 在アルゼンチン大使公邸

主催（共催）：大使館、JICA

協力／参加企業・自治体：日本中小企業12社、日系団体

在アルゼンチン大使館

【概要】

- JICA「中南米日系社会との連携調査団」の当地訪問の機会を捉えて、本調査団に日本から参加の中小企業関係者への当地経済・金融情勢等の説明と、当地日系人起業家グループとの懇親を兼ねた会合を、大使公邸でJICAと共催した。
- ODAと民間ビジネス活動の連携を推進する中、移住先国で活躍する日系人をパートナーとして、日本の民間企業との連携を促進することで、日系社会が現地の開発課題の解決に貢献し、さらに民間企業が中南米への事業展開を実現するといった互恵的な協力を構築する。

【評価・結果】

- 当該会合においては、日本の中小企業関係者と当地日系人起業家グループの間で、お互いの事業内容や関心分野等について積極的に情報や意見交換が行われ、日本からの中小企業ミッションの参加者はもちろん、当地日系人の経営者側からも当該会合の開催を高い評価があった。日本企業の進出に対し、日系人側でも情報の提供、パートナーの開拓、法律・会計上のアドバイスなど提供していくようにする良い契機となったとする声が多くあった。
- また、JICA事務所からは、調査団の訪問中、当該会合を契機に具体的な商談に結びつく可能性がある案件もあった旨報告を受けているところ、当館として、今後もこのような機会を捉えて、当地における日本企業支援に尽力する考えである。



【意見交換会】

日本式マネジメント研修公邸レセプション（アルゼンチン）

開催日： 平成28年10月4日
場 所： 在アルゼンチン大使公邸
主 催： 大使館

在アルゼンチン大使館

【概要】

- 海外産業人材育成協会（HIDA）及びTAHOコンサルティング社が連携して日本式マネジメントを普及するため、日本における亜企業の研修事業に関連し、公邸においてレセプションを開催した（日本式マネジメント研修員関係者20名、本邦研修受け入れ企業関係者4名、国際協力機構（JICA）1名等約30名参加）。本使より、右研修事業への期待、当地における現地パートナーの重要性等について説明を行った。
- 研修代表からは、日本式マネジメントの重要性を強く信じており、訪日ミッションの実現を非常に誇りに思っている。今回のミッションで、参加各社は日本のトップの企業から直接学んだ日本式マネジメントを帰国後、自社のマネジメントに適用してほしい。日本式マネジメントは、効率性のみならず、日本の文化に特徴的な他者への尊重、長期的視点、ホスピタリティに根付くものであり、参加者は、これを体験し、学んで欲しい、今回の訪日ミッションは最初の第一歩であり、今後より多くの企業が参加することを望む旨挨拶があった。

【評価・結果】

- 日本企業からは、当地でのビジネスを拡大するためには、現地パートナーが必要であり、日本式マネジメント等を通じて日本企業を理解して頂ける信頼できるパートナーが多く誕生することに期待している等のコメントがあった。



ファコンド・ゴンザレス日本式マネジメント研修代表のスピーチ

「第一級の日本式マネジメント」（10月9日付けクラリン紙21面）

概要：福嶋在亜日本大使は、日本式マネジメント研修プログラムについて日本での研修実施を機に、関係亜企業関係者20名を公邸に迎えた。同プログラムは期間中（10月16日から27日）に日本企業を訪問し、日本企業のマネジメント・モデルの効能と技術を体験する。

6. 安全対策

【安全対策】

安全対策連絡協議会（ブラジル）

開催日：平成29年2月8日

場 所： サンパウロ日伯援護協会（サンパウロ州サンパウロ市）

主催（共催）：サンパウロ総領事館

参加者：日本企業関係者約150名

在サンパウロ総領事館

【概要】

当地での邦人に対する強盗被害が多発している状況を鑑み、在サンパウロ総領事館領事による当地治安情勢、防犯対策を内容とした安全対策連絡協議会を開催した。

【評価・結果】

予想を上回る参加者数となり会場の変更が余儀なくされた。

質問が多く、参加者の危機管理への意識の高さが窺えた。

参加者の多くは本社への現地治安情勢の報告が必要となっていたところ、開催に対して謝意があった。

当地治安情勢及び安全対策に対する深化を図ることができた。

当地邦字紙「サンパウロ新聞」では「邦人を狙った異常事態」等と掲載され、参加できなかった当地企業関係者にも、生活する上での危機管理を広く伝えることができたと思料する。



7. その他

【その他】 カリーニングラード州ビジネスミッション（ロシア）

開催日： 平成28年10月3日～4日
場 所： ロシア連邦カリーニングラード州
主 催： 大使館，モスクワ・ジャパンプラブ

在ロシア大使館

【ミッション概要】

- 大使館とモスクワ・ジャパンプラブの合同ビジネスミッションとしてカリーニングラード州を訪問。ジャパンプラブからは、15社16人の日本企業関係者が同行した。2日間のビジネスミッションでは、アリハノフ同州首相代行（その数日後に知事代行に就任）と会談を実施し、日・カリーニングラード州間の経済関係強化の展望等について意見交換を行った他、同州の経済省、産業政策・企業活動・貿易発展省、発展公社によるプレゼンテーション・セッションに参加した。
- また自動車組み立て工場「アフタール」社、バルト連邦大学附属科学技術パーク「ファブリカ」、運輸ロジスティック会社「DSV」を視察した。

【評価・結果】

- 参加者からは、「州知事と直接面談し、直接意見交換する機会はなかなか得られず、また州政府側の担当者と直接知り合えることができ非常に有益である」との意見が寄せられた。
- 州政府関係者からは、都市開発や保健、中小企業、産業多角化といった州の優先事項プロジェクトに関する説明があった他、税や補助金などの特惠制度や産業パークの概要などの説明が得られ、参加者にとっては、今後、カリーニングラード州との協力を検討するにあたり有意義であったと考えられる。



【その他】 女性活躍の促進に向けた日本の取組み発信イベント（米国）

開催日： 平成29年2月28日
場 所： 在米国日本大使公邸
主 催： 在米国日本大使館
参加者： 経団連女性訪米ミッションメンバー

在米国大使館

【概要】

- 経団連による初の女性企業幹部だけからなる訪米ミッションに合わせ、女性の活躍促進に向けたフォーラムを開催。
- 佐々江駐米大使夫人がモデレーターを務め、経団連ミッション団長の吉田晴乃氏、当地ジャーナリストのキャサリン・マッシューズ氏と共に、女性がリーダーとなることの意義や課題等について話し合った。
- 他の経団連ミッションメンバーも、フロアから日本企業における女性活躍に向けた取組み等について紹介を行ない、フォーラム終了後はネットワーキングの時間を設けた。

【評価・結果】

- 当地で働く日本人女性や日本に関心を持つ米国の関係者が多数出席し、アベノミクスの柱の1つであるウィメンノミクスについてアピール。
- 参加者からはキャリア形成や家庭と仕事の両立等に関し多くの質問が出され、活発な意見交換ができた。



【その他】 アニメーション・フェスティバル（ケープタウン）

開催日： 平成29年3月3日

場 所： The River Club, Observatory

主催（共催）： 在ケープタウン領事事務所、ケープタウン国際アニメーション・フェスティバル

協力／参加企業・自治体： ポリゴン・ピクチュアズ

在ケープタウン領事事務所

【概要】

- Japan Cultural Weekの第1弾としてケープタウン国際アニメーション・フェスティバルが行われ、塩田周三ポリゴン・ピクチュアズ代表取締役／CEOが登壇。
- CGを駆使したデジタルアニメーションスタジオとして世界で最も古いポリゴン・ピクチュアズが、大手との競争の中で発展した歴史をプレゼンし、その中で世界のアニメ産業の変遷につき説明した。
- 講演後、若手アニメーターたちへの個別指導も行った。

【評価・結果】

- 講演後、塩田氏に質問を求める聴衆が1時間半にわたり取り囲んだ。
- 世界におけるアニメ産業の動向についての貴重な話が聴けたことを喜ぶ声が大きかった。
- 3月12日から15日に訪日したジレ西ケープ州首相が関心をもち、ポリゴン・ピクチュアズ社を訪問した。

